

令和 6 年 5 月 23 日現在

機関番号：54701

研究種目：若手研究

研究期間：2021～2023

課題番号：21K12841

研究課題名（和文）中国兵学思想史における星占の理論とその変遷について

研究課題名（英文）The theory of Xingxuzhan and the transition in history of Chinese Military Thought

研究代表者

椋島 雅弘（Kabashima, Masahiro）

和歌山工業高等専門学校・総合教育科・助教

研究者番号：90823807

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、中国兵学思想史における星占を中心とした様々な占術や概念の詳細について明らかにした後、歴史的考察を行うことで、中国兵学思想史がどのように成立したのかが明らかにした。具体的には、五星占・孤虚占・鬼神についてそれぞれ検討できた。また、術数と兵学を明らかにする上で極めて重要な「兵陰陽」という概念について、厳密な定義とその継承状況について明らかにした。さらに、出土文献や佚文・注釈を活用し、『孫子』と術数の関係についても分析することができた。以上の成果は、5本の論考と1冊の著書として発表済みである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、中国兵学思想史研究に「術数」「占術」というアプローチ方法を提供する点と、東アジア世界における兵学・術数・歴史を解明する足がかりの一つを作った点である。本研究では、星占・孤虚占など占術という視点からの考察や、『孫子』・兵陰陽といった書籍・概念からの考察など、術数と中国兵学思想史について多角的な視点から実相を解明したが、これらの内容は、東アジア全体の兵学・術数・歴史と密接に関わっている。従って、本研究の成果は、中国・日本・韓国を含む東アジア全体の当該分野研究に役立てることが可能である。

研究成果の概要（英文）：After a detailed exposition of various astrology and concepts centered around astrology in the history of Chinese military thought, this study reveals how the history of Chinese military thought was established through historical examination. Specifically, discussions were conducted on Wuxing Zhan, Guxu Zhan, and Guishen respectively. In addition, the concept of "military yin and yang(Bing Yinyang)", which is extremely important for clarifying numerology and military thought, has been rigorously defined and inherited. And using unearthed literature, utilizing excavated documents, and annotations, the relationship between "Sun Zi" and divination techniques was analyzed. The above achievements have been published in five theses and one research work.

研究分野：中国兵学思想史・中国術数

キーワード：中国兵学思想史 術数・占術 兵陰陽 天文占 『孫子』

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

中国兵学思想史には、二つの大きな潮流が存在する。一つは、人為的努力によって勝利を目指す兵学思想史である。例えば、中国兵書で最も著名な『孫子』には、「彼を知り己を知れば百戦して殆うからず」という句が存在する。これは、開戦前の徹底した情報収集・分析という「人為的努力」を重視するものである。

もう一つは、占術を頼りに勝利を目指す兵学思想史である。ここでいう占術とは、主に太陽・月・星・雲・風・雨の形状・動き・変化を観察することで、未来の勝敗を見通す術を指す。中国では古くから、それらを正確に観測することによって、軍の勝敗や攻撃すべき時期・場所等を知ることができると認識されていた。

これまでの中国兵学思想史研究においては、前者は注目され続け、湯浅邦弘『中国古代軍事思想史の研究』（研文出版、1999年）や李零『『孫子』十三篇総合研究』（中華書局、2006年）をはじめとして、数々の考察が存在する。一方、後者については長らく等閑視されている。その大きな理由の一つは、占術に基づいた兵学思想が単なる「迷信」と見なされていたことに拠る。

しかし前述の通り、占術に基づいた兵学思想は、人為的努力によって勝利を目指す兵学思想に並ぶほどの位置を占めており、中国兵学思想史の実相を解明する上で欠かすことができない領域である。以上の学術的背景のもと、申請者はこれまで「占術に基づいた兵学思想は、なぜ中国兵学思想史において重要な位置を占めたのか」という学術的「問い」に基づき、研究を進めた。その結果、占術に基づいた兵学思想が、「どのような理論に基づいて成立・発展したのか」という点に注目するようになった。なぜなら、占術の背後に存在する法則は、その占術を信じる（重要視する）ための大きな根拠の一つだからである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、占術に基づいた兵学思想の中でも、特に主要な位置を占める「星占」がどのような論理に基づいて成立・発展したのかを明らかにすることである。また、星占と関連する諸占術及び概念について検討することで、「中国兵学思想=合理的で人為的努力を貴ぶ」とは異なる新たな中国兵学思想史像を構築することも目的とする。

3. 研究の方法

具体的には、戦国時代から北宋までに成立した文献における①「各星に関する基本認識」と②「各星に関する占術の理論とその変遷」を明らかにする。

まず、時代を北宋までとした理由は、兵学・占術学における一区切りとして北宋が相応しいと判断したからである。兵学については、北宋時代に『武経総要』という総合的兵書が生まれ、一旦の完成を遂げている。一方占術学は、南宋になると朱子の登場により、大きく変化するという説が存在する。（水口拓壽「四庫全書における術数学の地位—その構成原理と存在意義について」、『東方宗教』第115号、2010年）

4. 研究成果

令和3年度・4年度前期においては、特に五星占について検討を進めた。五星（太歳・ケイ惑・鎮星・辰星・太白）に関する占術は、陰陽・五行を含めた様々な象徴を媒介した（天と）五星と人間の感応関係に基づいて成立していた。換言すれば、中国では古くから五星の異変を人間界の事象に連想させて占っていた。

例えば、太白・辰星が突出して軍事と結びつけられている要因として、太白・辰星・軍事いずれも陰のイメージがあり、そこから感応している可能性が指摘された。そして、五星占（を含めた天文占）が思想的活力を持ち続け、種類を増やしながらか継承された要因の一つに、感応関係の自由度の高さが挙げられると考えた。以上の成果は、「中国兵学における五星占の理について」（水口幹記編『東アジア的世界分析の方法—（術数文化）の可能性—』所収、文学通信、2024年）として発表することができた。

令和4年度後期・5年度においては、五星占に関係する四篇の論考と一冊の著書として発表することができた。「中国における孤虚の占法とその変遷について—一式占との関わりから—」（『中国研究集刊』第68号、2022年）では、星占とも関わりの深い孤虚占について、占法の変遷について明らかにした。

「兵陰陽の定義とその行方」（『東方宗教』第140号、2022年）では、星占を含む「兵陰陽」という重要概念について詳細な定義を行った上で、中国兵学思想史における兵陰陽がなぜ後世継承されなかったのか考察した。

「術数からみた『孫子』とその受容に関する一考察」（『中国研究集刊』第69号、2023年）においては、『孫子』が後世、どのように術数的に受容されたのか確認した上で、その原因を明らかにした。

「中国兵学思想史における鬼神・廟の認識」（「中国生活文化の思想史」班第10回研究会）では、中国軍事における鬼神・廟の認識について、古代から宋代までの記述を検討しながら明らかにした。

さらに、これまでの研究をまとめた書籍『術数からみた中国兵学思想史研究』（朋友書店、2024年）を刊行することができた。本書は、これまで『孫子』を中心とした人為に基づく研究中心であった中国兵学思想史研究に対し、占術・術数という新たな視点からのアプローチを行うものである。

本書は、序章と本章七篇から成り、大半が発表済みの論考を加筆修正したものとなるが、序章と第一章附篇は書き下ろしである。序章では、特に2000年以降の中国兵学思想史研究を整理・分析した後、残されている課題について言及し、本書で検討する内容について説明する。第一章附篇では、『隋書』経籍志・兵家に収録される兵書について、佚文を活用しながら、術数との関わりを検討する。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 椋島 雅弘	4. 巻 69
2. 論文標題 術数からみた『孫子』とその受容に関する一考察	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 中国研究集刊	6. 最初と最後の頁 267-282
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 椋島 雅弘	4. 巻 68
2. 論文標題 中国における孤虚の占法とその変遷について 式占との関わりから	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中国研究集刊	6. 最初と最後の頁 81-97
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/88632	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 椋島 雅弘	4. 巻 140
2. 論文標題 兵陰陽の定義とその行方	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東方宗教	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件／うち国際学会 0件）

1. 発表者名 椋島雅弘
2. 発表標題 中国兵学思想史における鬼神・廟の認識
3. 学会等名 京都大学人文科学研究所共同研究プロジェクト「中国生活文化の思想史」班第10回研究会
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 水口幹記編	4. 発行年 2024年
2. 出版社 文学通信	5. 総ページ数 528
3. 書名 東アジア的世界分析の方法 術数文化 の可能性	

1. 著者名 椋島雅弘	4. 発行年 2024年
2. 出版社 朋友書店	5. 総ページ数 224
3. 書名 術数からみた中国兵学思想史研究	

1. 著者名 湯浅邦弘編著、椋島雅弘（他16名）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 212
3. 書名 よくわかる中国思想	

〔産業財産権〕

〔その他〕

中国出土文献研究会 http://www.shutado.org/ 術数文化 網 http://shushu.temmon.org/

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------